支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う**「支えあいのまちづくり協議体（第２層協議体）」**の令和５年度第２回目を、京橋地域で開催しました。

１　実施日
令和５年７月５日（水）10:00～11:30

２　出席者
日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター　10 名

３　内容
・出席者近況報告
・意見交換　①高齢者が集まる社会資源把握のためのアンケートについて
　　②広報紙「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」について

４　出席者近況報告
出席者の近況報告を行った。

５　意見交換　①高齢者が集まる社会資源把握のためのアンケートについて
コーディネーターより、前回までの振り返りと共有。アンケート結果を踏まえ、以下の意見があがった。

- ✓ 散歩は盲点であった。“出かける”となると建物があるところとか集会があるところ等限定したものだと思っていた。意見の中に「長くは歩くことは得意ではないので、30 分で行ける場所であれば行ってみたいです」などがあった。同心円などを作成し、お散歩コースなどを作成してもいいのではないか。コンビニなども掲載し、水分補給を促す案内を入れるなど工夫してみる。区役所や保健所などから何キロ、何分などを記載するなど。
- ✓ 病院を選択している人が多い。地域密着型の病院も多いのかもしれない。（整骨院や歯医者、眼科など）

→どこの病院へ通院しているかなどはインタビューしていないためわからないが、買い物などの話では野菜を売っているコンビニを利用している方が多かった（店名を覚えている方は少なかった。）

- ✓ アンケート回答していただいた場所ごとに地区の特色が変わってくるため、結果をまとめない方がいいのではないか？
- ✓ 男女間で違いはあると思う。「友達や知り合いに会える」に選択してくれた方は多分女性が多いし、「家から近い場所」に選択した方は男性陣が多いと思う。男女間でデータが変わってくると思う。

→通いの場に来られている方の９割が女性陣であり、一部の通いの場で複数人男性陣をみた程度。

- ✓ 男性陣は普段どこで何をしているのか？敬老館でも男性をあまり見かけない。
- ✓ スポーツジムに通っている人はそもそも通いの場には行かない。“ジムに行くことが仕事”

リタイアした人の時間の使い方になっていて、ジムに毎日通うがコミュニティは開かれていない。“職場としてのジム”という感じ。

- ✓ 「行ってみたいところ」に 100 円均一や業務スーパーが入っていることが意外であった。築地にあるが、新川や八丁堀からしたら少し遠い。高齢者だと徒歩 15 分～20 分ほどかかってしまうからなのか。
- ✓ オフィス街だからこそ、生活雑貨があまりないイメージ。高齢者は車などで送り迎えして欲しいのでは？コーナンやビバホーム、豊洲のららぽーとなど。
- ✓ 江戸バスが 65 歳以上無料になってしまったことで混雑しており、乗れない。時間帯にもよるが、始発から立っている人がいるほど。今までは 100 円払うなら歩くという人も無料になったことで、乗る利用者がより増えた。利用者は増加したものの本数が増えたわけではなく、変わらず 20 分に 1 本であるためより混んでいる。
- ✓ “参加したきっかけ”の欄で「家族」の欄が 0 人であった。ここ数年、協議体では情報を自分で取りに行けない人に向けて、家族にアプローチをしていくことを行っていたが、アンケート結果を見ると家族からのきっかけがなかった。この結果も知れてよかった。
- ✓ 掲示板を見ているのか高齢者がほとんど。興味がないと見ようとも思わない。

→他地域にはなるが、掲示板の周りに集まることで自然な交流が生まれているところもある。

- ✓ 自分たちが知らないだけで、探せば居場所はたくさんある。しかし、情報が届いていないし、把握していない人が多い。通いの場のマップも貼ってあるだけでプログラム内容が書かれているわけではないため、行ったり誘われないとわからない。

→関心のあるものには目を向けるが、関心のないものには一切目を向けていない。

- ✓ 情報社会ではあるが高齢者の行動を決めるのは結局近所の人からの紹介だったりする。

→普段出かける場の選択肢に“通いの場”を入れていたが“通いの場”として参加しているのではなく、「友達の紹介」として参加している高齢者が多いため「友達に会える場」として参加している高齢者が多い。

↓

- 今回の結果をもとに一度アンケート結果を精査し、今後どうしていくのかを検討。（マップ作成や広報紙への落とし込み、クチコミ、配布先、配架先など。）
- サロンごとの集計結果データも共有していくこととなった。

<u>意見交換　②広報誌「きらきらいふ京橋人～ゆるっとつながる～」について</u>

完成した第５号に関する動画（シルバー川柳について）を視聴。以下の意見があがった。

- ✓ シニアセンターの場所がわかりづらい

→動画内で地図とバス等での行き方を記載することとなった。

- ✓ “チャンネル登録”だけでも別色にした方がいいのではないか。

第６号案について、以前よりインタビュー先として候補が挙がっていたマイホーム新川について、堀家氏より新型コロナウイルスが落ち着いてきたこともあり、取材可能とのことでマイホーム新川で決定。インタビューするにあたり、インタビュイーをメンバーに行ってもらうため、日程調整については調整さんにてメールで送ることとなった。

コーディネーターより、通いの場でアンケートを実施した際にきらきらいふを配布。参加者からの意見より「どこに配布されているかわからない」という声があった。置いてあるだけではあまり意味がなく、実際に友達からの紹介など自分たちから直接情報発信しに行った方が、広報が広がると感じた。そのため、第５号を配布するために再度通いの場に訪問し、紹介をしようと検討している。訪問の際に、協議体のメンバーにも協力していただき一緒に紹介してもらえればと思っている。日程は調整さんにてメールで送ることとなった。

６　今後のスケジュール

次回は令和５年１０月下旬～１１月上旬に開催予定。アンケート回答者と直接やり取りができることから、他の通いの場でもアンケートを実施し、その調査結果について意見交換を行う予定。

７　その他

事務局よりメンバーへ質問。「男性の方が隅田川テラスで散歩をしている姿は見かけるか？見かけるのであれば男性も閉じこもっているわけではなく、散歩という形にはなるが外出していると考えられるのではないか？」メンバーからは、散歩をしている男性を見かけるが、京橋地域の人が散歩をしているのかと言われると不明、との話があった。

また、佐藤氏より、「体操をしたい」「身体を動かしたい」「高齢者が良く集まる場所はないのか」という相談や質問はよく聞かれるが、男性でそういう相談をおとセンで受けることはほとんどない。おとセンに相談に来る方は生活機能が低下している方が多い。そのため、通いの場に来ているような方とは少し状況が違う。男性の８割は買い物や病院以外どこにも行ってない方がほとんどだと思う、との話もあった。

他のメンバーからも、男性は仕事一本で来た人たちが高齢世代に入り、趣味がない人が多い。近所での知り合いも少なく、家族としては認知症になってしまうのではないかという心配がある。今から新しい友達を作ることや興味があることを作るのは億劫になる。そのため、家に居る時間が長くなるのかもしれない、といった意見があがった。

＜参考＞　意見交換の様子